大阪インターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2012 年 9 月 9 日
シリーズ: 使徒言行録#31　　聖書個所: 使徒言行録 10:23b-48　中心聖句: イザヤ書 43:19
タイトル: 見よ、新しいことをわたしは行う　特別行事: 子どもたちのためのメッセージ、More

I.　導入

おはようございます。はじめに皆さんにお尋ねします。物語が好きな人はいますか。物語が好きな人はたくさんいます。読書が好きな人もいれば、映画を観るのが好きな人もいますが、その共通点は引き込まれるようなストーリーでしょう。そこには、笑いあり涙あり、あらゆる勝敗、そして思いがけない展開がいっぱいです。そんな物語を読んだり観たりすると、私たちは登場人物と自分を重ね合わせ、その世界に入り込むのです。新たなできごとが起こるたびにワクワクし、予期せぬ方向に話が進むと、期待がますます高まります。

この世に物語はたくさんありますが、その中で一番おもしろいのが神の物語です。過去も未来も、この世の歴史のすべてが、実は神の物語なのです。というのも、神が宇宙の創造主であり、すべての主だからです。けれども、もう少し絞って考えると、聖書が神の物語です。その主題は、イエス･キリストが十字架上で成し遂げられた御業をとおして、人々に救いをもたらす神のご計画についてです。一度読めば十分だという類いの本はたくさんあります。しかし、聖書はそういう類いのものではありません。聖書を読めば読むほど、神の愛と知恵、そして栄光について知るようになります。また、読むたびに、今まで気づかなかった新しい発見があります。

神の物語には驚きが満載です。神のご計画の全貌は、人間の知恵や想像力の域を超越しています。どんな作家からも、十字架上で救い主自身が死ぬことによって救いをもたらすなどという発想は出てきません。けれども、神はそう考えられたのです。神はいつのときも新しく驚くべきことをなさいます。そして、それを前以て宣言なさる場合もあります。例えば、**イザヤ書 43:19** で神はこう言っておられます。**「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き／砂漠に大河を流れさせる。」**神は道なき場所に道を開き、渇いた砂漠に祝福の川を流されるお方です。それを私たちはちゃんと受け止めているでしょうか。神が新しいことをなさるときに、それに気づいているでしょうか。私たちは目を覚ましていなくてはなりません。さもないと、神がなさる新しいことを、ここ OIC で神がなさることであっても、見逃してしまう可能性があるからです。

今日の聖書個所で、神が新しいことをなさいます。ペトロと弟子たちは驚きますが、この新しいことは神のご計画の一部で、人々に神の愛を届けることなのだとそれを受け入れます。では、使徒 10:23b-48 をお読みしましょう。

II.　聖書朗読　使徒言行録 10:23b-48, (新共同訳)

> 10:23b 翌日、ペトロはそこをたち、彼らと出かけた。ヤッファの兄弟も何人か一緒に行った。 10:24 次の日、一行はカイサリアに到着した。コルネリウスは親類や親しい友人を呼び集めて待っていた。 10:25 ペトロが来ると、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。 10:26 ペトロは彼を起こして言った。「お立ちください。わたしもただの人間です。」 10:27 そして、話しながら家に入ってみると、大勢の人が集まっていたので、 10:28 彼らに言った。「あなたがたもご存じのとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、外国人を訪問したりすることは、律法で禁じられています。けれども、神はわたしに、どんな人をも清くない者とか、汚れている者とか言ってはならないと、お示しになりました。

10:29 それで、お招きを受けたとき、すぐ来たのです。お尋ねしますが、なぜ招いてくださったのですか。」

10:30 すると、コルネリウスが言った。「四日前の今ごろのことです。わたしが家で午後三時の祈りをしていますと、輝く服を着た人がわたしの前に立って、 10:31 言うのです。『コルネリウス、あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前で覚えられた。 10:32 ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、海岸にある革なめし職人シモンの家に泊まっている。』 10:33 それで、早速あなたのところに人を送ったのです。よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです。」

10:34 そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。 10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。 10:36 神がイエス・キリストによって――この方こそ、すべての人の主です――平和を告げ知らせて、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、 10:37 あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。 10:38 つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

10:39 わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなさったことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、 10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。 10:41 しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。 10:42 そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。 10:43 また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

10:44 ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。 10:45 割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。 10:46 異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを、聞いたからである。そこでペトロは、 10:47 「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言った。 10:48 そして、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと、その人たちに命じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在するようにと願った。

III. 教え

この聖書個所で、神は驚くべき新しいことをなさっています。お気づきですか。**使徒 10:44-45「ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。10:45 割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。」**著者はここで、ペトロと一緒に来た信徒たちが割礼を受けている者だったと書いています。つまり、彼らはユダヤ人だったわけです。それがユダヤ人として生まれた人たちだったのか、ユダヤ教に改宗した人たちだったかはわかりませんが、とにかくこの人たちはユダヤ人でした。異邦人が割礼を受けると、彼らはユダヤ人と見なされ、異邦人ではなくなりました。モーセの時代から、異邦人がユダヤ教徒になりたいと思えば、モーセの律法を受け入れ、割礼

を受けなければならなかったのです。

しかし、神は新しいことを好んでなさいます。ですからここで、神は新しいことをなさいました。神の聖霊を異邦人に注がれたのです。それだけでなく、使徒 2 章で弟子たちが最初に聖霊を受けたときにいただいたのと同じ霊の賜物やしるしもお与えになりました。ペトロと、そこに一緒にいた信者たちは、神がそのようなことをなさって非常に驚きました。しかし、そのような驚きは無用のはずです。神が旧約聖書をとおして何度も繰り返しおっしゃっていたことは、国々の民に救いをもたらすということでした。ペトロは**使徒 2:17** で預言者ヨエル（ヨエル 2:28）の言葉を引用し、このように言っています。**「神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。」**そこには、**「わたしの霊をすべての人に注ぐ。」**と預言されています。つまり、イスラエルの民だけでなくすべての民です。しかしペトロは、コルネリウスとその親類や友人たちが聖霊に満たされ、異言で語るのを見て、仰天しました。

ペトロはなぜそれほど驚いたのでしょう。ペトロはこのことについて使徒 10 章前半ですでに幻を見ています。そして、今日の聖書個所である**使徒 10:34-3**5 にはこうあります。**「そこで、ペトロは口を開きこう言った。『神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。 10:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。』」**ペトロはわかっている部分もあったけれども、完全には理解していなかったということです。ペトロは、神が人種や民族に関係なくすべての人を愛してくださっているという部分はわかるようになったようです。しかし、このような新しい信徒たちもモーセの律法を守り、割礼を受ける必要があるとおそらく思っていたのでしょう。

ところが、ここで神はペトロに、教会はモーセの律法に縛られてはいけないとお示しになります。教会に加わった異邦人は、律法を守ったり、ユダヤ教徒の慣わしに合わせたりする必要はないというのです。神はこれらの人々をありのままで受け入れてくださいます。ペトロはこのことに衝撃を受けました。そして、それを証明するできごとを目にします。神が聖霊を異邦人に注がれたのです。そこで、ペトロは神のみこころにゆだね、**使徒 10:47** でこう言います。**「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」**こうして、コルネリウスと彼の親類や友人はイエスの御名による洗礼を受け、教会に加わりました。

コルネリウスがどれほど嬉しかったか想像できますか。彼は、唯一のまことの神を礼拝していましたが、神が自分とその親類や友人を受け入れてくださっているという確信を初めて得たのです。霊の賜物と洗礼をもって、彼は教会という新しいクリスチャンの輪に迎えられたことを実感しました。そのことで、自分の同胞であるイタリア人、そしてすべての民がイエス･キリストの御名をとおして救われるチャンスがあることも知りました。

ペトロは、コルネリウスがすでにイエスについてご存知でしょうと言います。それでもなお、福音の中心となる真理を改めておさらいします。その中には、十字架と復活、イエス･キリストにある平安という良き知らせ、イエスがすべての主であられること、またイエスを信じる者はすべて罪の赦しを受けることが含まれていました。私たちも、十字架と復活抜きに福音を語ることはできないと覚えておくべきです。イエスの十字架上の死は、私たちに対する神の深い愛の証であり、罪の赦しを可能とするからです。

ローマ 5:8 が語るとおりです。**「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」**

聖書は神の物語です。それは私たちへの神の愛の物語です。そこには歴史全部のあらましが

含まれており、ご自身の手で創造された人間に対する神の愛が切々と綴られています。旧約聖書は、人々を罪と死から救い出す救い主を送るという神のお約束を語ります。福音書には、救い主の人生、死、そして復活について記されています。このお方は、イエス･キリストという人のかたちでこの世に来られた神です。そして、新約聖書の残りは、福音の良き知らせと、終わりの日にイエスが再びやってこられるという預言を伝えています。

コルネリウスとペトロは、神の物語と神のご計画の中でそれぞれの役割がありました。そして皆さん、私たちにも神の物語の中に役割があるのです。神は一人ひとりを心から愛してくださいます。神を離れては、罪や死からの救いはありません。だからこそ、私たちが神のもとに来て救われることを望んでおられるのです。神が**イザヤ書 45:20-22** で与えてくださった招きについて考えてみてください。**「45:20 国々から逃れて来た者は集まって／共に近づいて来るがよい。偶像が木にすぎないことも知らずに担ぎ／救う力のない神に祈る者。 45:21 意見を交わし、それを述べ、示せ。だれがこのことを昔から知らせ／以前から述べていたかを。それは主であるわたしではないか。わたしをおいて神はない。正しい神、救いを与える神は／わたしのほかにはない。 45:22 地の果てのすべての人々よ／わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない。」**

神は真理を語られます。しかし、愛をもって語ってくださいます。神は私たちを深く愛しておられます。しかし、神は聖なるお方ですから、私たちの罪が神と私たちを隔てています。罪ある人間は聖なる神の臨在の中に入ることはできません。けれども、罪深い私たちを神はお見捨てにはなりませんでした。イエス･キリストという人のかたちでこの世に来てくださり、ご自身の命を私たちの身代わりにささげてくださいました。キリストにあって、私たちに下されるべき死の罰を神の御子ご自身が受けてくださったのです。このことについて、**ペトロ第一 2:24-25** はこのように語っています。**「2:24 そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。 2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。」**私たちはさまよう羊のように道を誤りましたが、十字架上で偉大な羊飼いが帰る道を開いてくださいました。それは、神との正しい関係へと導く道です。

コルネリウスの話ではっきりわかるように、救いの道はすべての人に開かれています。**(ローマ 10:12-13),「10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。 10:13『主の名を呼び求める者はだれでも救われる』のです。」**主の名を呼び求める者は誰でも救われる、これは信仰によっていただける神の恵みです。イエスを信じるという決心をまだされていない方は、できるなら今日その決断をなさるようにお勧めします。私たちの主は待っておられます。コルネリウスが 2000 年近く前に決心したのと同じように、あなたが心を決めるのを待っておられます。

ただ祈ればよいのです。そのとき大切なのは、祈りの言葉よりも心です。もし、信じたいという気持ちがあるなら、心の中で神に罪を告白し、イエスの御名によって赦してくださるよう願いましょう。そして、神を自分の人生にお迎えしましょう。あなたも神の物語の登場人物のひとりです。神はあなたを愛し、あなたに恵みあわれみを注ごうと今この瞬間も待っておられます。人生に転機を求めていますか。今あなたが置かれているのは、道もなく渇ききった人生の砂漠でしょうか。神はコルネリウスとその親類や友人のために新しいことをなさいました。この神は、あなたとあなたのご家族やご友人のためにも新しいことのできるお方です。**イザヤ書 43:19** のことばが、あなたの人生、あなたの家庭で実現できるのです。神はこうおっしゃいます。**「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き／砂漠に大河を流れさせる。」**

今日のメッセージを終える前に、もう少しお話したいことがありますが、その前に、今しばらく時間をとって静かに祈りましょう。人生に新しいこと、転機が必要なら、心の中で神を呼び求

めてみてください。神にはあなたの声が必ず聞こえます。では、一分ほど静かに祈り、今ここで神に各々語りましょう。では祈りましょう。(一分間静かに祈る)

愛する主よ、私たちの祈りをお聞きくださりありがとうございます。あなたの深い愛を感謝します。あなたは今、私たちの心の叫びを聞いてくださいました。あなたのすばらしい愛と恵みによって、あなたの民の必要をどうか満たしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

今、罪の赦しと新しい命を神に求めた人は、もうそれをいただいています。すぐに変化に気づく場合もあれば、変化があらわれるまでしばらくかかる場合もあります。けれども、神は確かに私たちの祈りを聞いて答えてくださいます。特に、イエスの御名で願う者は誰でも罪の赦しと新しい命を約束してくださっていますから、必ずそれをいただけます。イエスご自身も、**ルカ 11:10** でこうおっしゃいました。**「だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」**

主は喜んで新しいことをしてくださいます。私たちが主の御名を呼び求め、恵みと愛を注いでくださいと願うなら、なおさらです。私たちはそれぞれ、神の物語、すなわち救いの物語の中に役割を持っています。来月、私たちは OIC の創立 38 周年を祝います。この 38 年間、OIC ではイエスの御名が語られ、救いの良き知らせが宣べ伝えられてきました。この間、神はこの教会を大いに祝福してくださり、多くの人がイエスを信じて救われました。OIC はすでに、日本をはじめ各国の人々に救いをもたらす神の物語で役割を果たしています。

しかし、今年に入って、私はあるチャレンジを皆さんにお分かちするという主の導きを感じました。OIC が神の物語の一部としての役割を新たにする、信仰をもって一歩踏み出し、周りの人たちにもう少し勇気を持ってイエスの御名を伝えるというチャレンジです。このことを皆さんにお話してから数ヶ月経ちましたが、覚えておられますか。今年の目標は何だったでしょうか。

そうです。私たちの目標は、「神の栄光のために会堂をいっぱいにしよう」です。神は収容人員 300 名のすばらしい会堂を与えてくださっています。けれども、未だに満員になったことがありません。もちろん、これは私たちの努力のみでできることではありません。祈りが必要です。それが神の働きだからです。*「具体的に私の祈りは、私たちが愛と伝道の心において成長し、2013 年 3 月 31 日のイースター礼拝が始まる午前 10 時には、この会堂が神をたたえ主イエスの復活を感謝する人でいっぱいになっていることです。」*

私たちが神を信頼し、もう少し頑張ろうという気があるなら、これは実現可能だと私は思っています。もう少し祈る。もう少し互いに愛し合う。もう少し勇気を出して、イエスのことを分かち合う。これは神の働きです。神が収穫をもたらしてくださるお方です。しかし、私たちにもその働きの一部を担わせてくださいます。神はペトロを用いることなくコルネリウスを救うこともおできになりましたが、ペトロを用いることを選んでくださいました。こうして主に仕えることで、ペトロの信仰が成長するチャンスともなったわけです。私たちも成長しなければなりません。また、私たちも新しいことがなされるのをこの目で見たいと思います。

もちろん、クリスチャンの働きには、何か神の栄光のために新しいことをしようとするとそこに邪魔が入るという現実もあります。今までの使徒言行録の学びで、弟子たちが抵抗や迫害に遭ったことがわかります。また、今後の学びでも使徒 12 章以降でそのようなことがたびたび起こります。私たちの場合は、この目標を 5 月に掲げて以来、礼拝参加者数が増えるどころか少し減り気味です。けれども、がっかりしないでください。むしろ、主を信頼し、互いに愛し合い、周りの人に手を差し伸べることを続けてください。

OIC で神が新しいことをしてくださるのを期待しますか。もしそうなら、これからもともに

信仰の道を歩み続けましょう。具体的なアドバイスをひとつ申し上げます。以前配った祈りのカードをまだ使っていないなら、今から使ってみてください。OIC に来てほしいと思う人の名前をカードに書いて、その人たちのために続けて祈ってください。来週は土曜、日曜とイノクさんのピアノコンサートがありますから、その祈っている人たちを誘ってみてください。祈りのカードを失くしてしまった人は、受付付近のパンフレットスタンドにあります。

IV.　結び

今日の学びで、神がコルネリウスの人生とペテロの心に新しいことをしてくださったことがわかりました。そして、私たちの心の中でも、この教会の中でも神が新しいことをしてくださるようにお願いしました。私たちは自分の努力や計画に信仰をおいているのではありません。私たちの信仰はイエスのみにあります。このお方が私たちの救い主、祝福の希望、そしてあがない主です。最後に**ヘブライ 12:2** を読んで終わりましょう。**「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。」**

祈りましょう。

V.　祈り